

# 第5回山形県津波浸水想定・被害想定検討委員会 議事概要

- 1 日 時 平成28年2月10日（水）午後1時30～3時30分
- 2 場 所 県庁講堂
- 3 出席委員 今村委員長、澤委員、長谷見委員、八木委員、安久津委員、長谷川委員、桐山委員、菅原委員、白田委員、上坂委員
- 4 協 議
  - (1) 津波浸水想定の家について
  - (2) 被害想定の家について
    - ①建物被害・人的被害について
    - ②ライフライン被害等について

## 【主な意見等】

- 津波最高水位の到達時間と-20cm、+20cmの到達時間の情報から、潮位変化から最大の浸水をもたらす大きな波までの時間が算出できるという見方をしていか。
- 今回の想定では、津波避難ビルは入れて想定したか。
- 建築年代が古くても耐震補強されていれば倒壊率は変わってくる。その要素は加味されているか。また、100%の建物が耐震化された場合、どれだけ被害が減少するのかという算定ができるのか。
- 早く逃げれば被害の人数が減る、という点は非常にインパクトがある。住民には、ただちに逃げるといふ部分を強調して伝えて頂きたい。
- 防災教育、防災訓練を行っていくことで、地域的な避難困難さを解消していくことになる。
- 被害想定を市町村の防災対策につなげてもらうには、アウトプットの整理が必要。
- 急傾斜地の崩壊は、震度によっても変わるのか。
- 建物の倒壊で自力脱出困難者になった場合は、津波や火災の死者になるということか。
- 津波避難路が急傾斜地に指定されていない場所にある場合でも、何らかの影響が出てくる可能性があるため、地域には予想される被害を説明していく必要がある。
- 避難者について市町村別にデータを示すことは可能か。
- 東日本大震災では、津波により火事が発生した。今回の被害想定では複合災害は考えていないのか。また、庄内空港は全く被害を受けないのか。
- ガス管被害は発生するのか。
- 要転院患者数と病床不足数の意味は。
- 復旧日数が出されているが、どういう手法・根拠で算定されているのか。
- 津波で被害を受ける場所や、液状化の被害を受けるとしたらどこなのか、もう少し分かるようになっていると、市町村や県の対策を考える上で参考になる。
- 復旧の程度について、災害のステージでどのように変化していくか記載されれば良いと思う。